

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

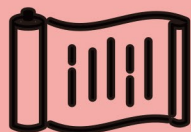
第 9 回

日文研



京都

アカデミック
ブリッジ



中国人学者が語る「風月同天」
～大陸からみた日本の古代・中世～

パネリスト：韓 東育（国際日本文化研究センター 外国人研究員）

パネリスト：劉 恒武（国際日本文化研究センター 外国人研究員）

パネリスト：孫 詩彧（国際日本文化研究センター 助教）

進行：伊東 貴之（国際日本文化研究センター 教授）

要申込

入場無料

定員200名

（抽選による）

2024. 8. 8（木）18:00～20:00（開場17:30） 京都新聞文化ホール

（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター、京都新聞



THEME

中国人学者が語る「風月同天」 ～大陸からみた日本の古代・中世～

東洋と西洋を結び、多彩な文化が花開いた「大シルクロード」展が今年11月、京都にやってきます。古代の日本はユーラシア大陸から伝来した文化に強い影響を受けながら発展してきました。古き日本は、大陸からどのように見られているのか。日文研の3人の中国人研究者に日本古代史を起点に、日本の歴史や文化の魅力を語ってもらいます。

日中の学術交流の成果として生み出された古代史中世史の新たな像や、中国の若い世代が注目する日本の伝統文化など、私たちにとって未知の世界が広がっています。ぜひお楽しみください。



パネリスト 韓 東育 (かんとういく)

国際日本文化研究センター 外国人研究員

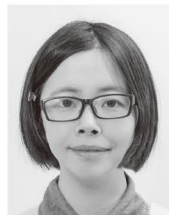
2001年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士。東北師範大学歴史文化学院教授、同副学長を経て2024年4月より現職。専門は日本史、東アジア思想史、東アジア国際関係史。著書に『從「道理」到「物理」——日本近世以来「化道為術」之格致過程』(2020)、『從「請封」到「自封」——日本中世以来「自中心化」之行動過程』(2016)、『從「脱儒」到「脱巫」——日本近世以来「去中心化」之思想過程』(2009)、『日本近世新法家研究』(2003)がある。



パネリスト 劉 恒武 (りゅうへんう)

国際日本文化研究センター 外国人研究員

2004年佛教大学文学部文学研究科博士課程修了、博士。陝西省考古研究所助理研究員、寧波大学教授を経て2024年4月より現職。専門は東アジア海域文化交流史、地域考古学。著書に『寧波古代对外文化交流——以历史文化遺存为中心』(2009)、共著書に『寧波对外贸易史』(白斌、金城との共著、2021)、『中国「海上絲綢之路」研究百年回顧』(龔纓晏との共編、2011)などがある。



パネリスト 孫 詩彧 (そんしーい)

国際日本文化研究センター 助教

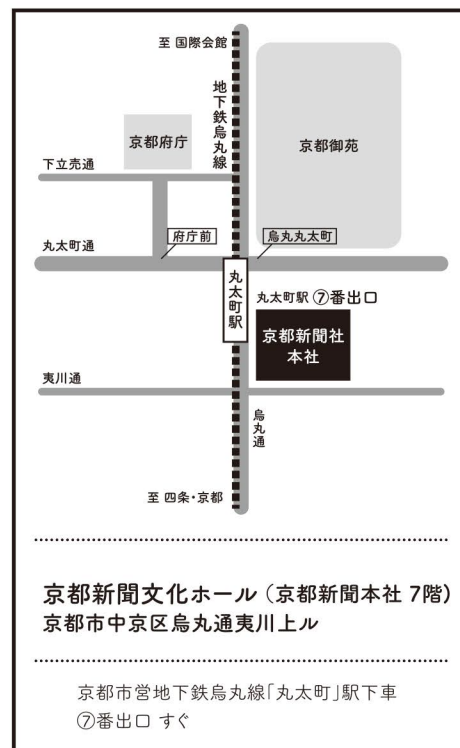
2020年北海道大学大学院教育学院博士課程修了、博士。北海道大学学術研究員、札幌学院大学非常勤講師、名古屋大学研究員、北海道大学特任助教を経て2023年10月より現職。専門は社会学。中国国家奨学金受賞(中国教育部、2013)。著書に『家事育児の分担にみる夫と妻の権力関係——共働き家庭のペアデータ分析』(2022)、『漢訳百人一首』(2016)などがある。



進行 伊東 貴之 (いとうたかゆき)

国際日本文化研究センター 教授

1986年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、1996年東京大学大学院人文科学研究所中国哲学専攻博士課程学位取得修了、文学博士。東京大学大学院総合文化研究科助手、武蔵大学教授を経て2010年4月より現職。専門は中国思想史、東アジア比較文化交渉史。著書に『中国近世的思想典範』(2015)、『思想としての中国近世』(2005)などがある。



参加申し込み方法

締切：2024年7月25日(木) (必着)

参加ご希望の方は、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥参加希望人数(複数名参加希望の場合は全員分の①～⑤)を明記のうえ、はがき、Eメールまたは応募フォームでお申し込みください。応募多数の場合は、抽選のうえ当選の方に聴講券を送付いたします。

〈はがき〉〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都新聞COM事業推進局内「日文研—京都アカデミックブリッジ」係

〈Eメール〉keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

〈応募フォーム〉https://kyoto-np.jp/_UkF0GIA



【応募フォーム】